

和泉なおみ都議ら都議団 「子どもの医療費助成条例案」を提出

日本共産党都議団は、子ども医療助成の多摩格差をなくし、「東京の空の下でくらすすべての子どもが同じ条件で医療を受けられるように」と、東京都の子ども医療助成を拡充する条例案を提出しました。



提出後記者会見をする和泉なおみ都議ら共産党都議団

日本共産党都議団が提出した条例案は、一回200円の窓口負担と所得制限をなくし、市町村への補助率を3分の2に引き上げるものです。これに対し、自民党は「条例は市町村に義務を押し付けるものである」とか「財源の確保を執行機関と調整していな

都内どこでも 同じ条件で

23区は無料、 多摩は有料の子ども医療費



東京都は15歳までの子ども医療費の軽減を行う市町村に対して、費用の半分を補助しています。しかし、一回の通院につき200円の窓口負担や、所得制限を設定しているため、多くの市町村で完全に無料にはなっていません。

一方、23区では、すべて無料で、所得制限もありません。そのため、多摩の市長会から都の補助率を上げることで、所得制限をなくすことが求められていました。



都議会厚生委員会にて (12/12)

い」などと言って反対し、否決しました。

呆れた自民党 都議の返事

条例案の審査の際に、各委が質疑を行うかどうか、条例案を提出する前に確認しています。

自民党のある議員「和泉なおみ都議が「質疑なさいますか？」と聞いたところ「たぶんやらないよ。どうせ反論されて、そっちの得になるだけ」と答えました。審査は、質問があれば審査は、いよいよ否決する理由がないものだが、どうかが明確になるという意味は、ない。

なぜに、共産党が出したものは、内容の如何に関わりも決す、都民の願いは、自民党の傲慢の表われ。

日本共産党都議会議員

和泉なおみの
さわやかレポート

NO.29
2016.1

発行：和泉なおみ事務所 TEL5671-0850
葛飾区東立石 3-25-8 FAX 5671-0851



知事 答弁

今後「入札監視委員」に 都OBは選任しない

和泉なおみ都議の追及実る

○月○日に開かれた都議会定例会で、委員長に都のOBがなっていたことを小池知事は、共産党都議団の一般質問に「今後、都のOBを委員に選任しないよう指示した」と、答弁しました。これは、先に行われた決算委員会で、和泉なおみ都議が、入札監視委員会の

委員長に都のOBがなっていたことを取り上げ、大問題になったものです。入札監視委員会が、今後、第三者機関としての本来の役割を果たし、契約や入札に関する透明性・公平性の確保にむけて機能するよう期待されます。

都は「外部の第三者」と言い張る

入札監視委員会というのは、東京都の契約や入札の透明性・公平性を確保するために設置されている第三者機関です。ところが、歴代の委員長はすべて都のOBでした。しかも直近の委員長は豊洲市場の鍵を握るとも言われる岡田至元市場長です。

和泉なおみ都議は、「都のOBを外部の人間だなどと言って公平性が担保されるはずがない。談合が疑われるような案件を審議すらしていないのは問題である」として決算委員会で質しました。これに対し都は、「OBは外部の第三者と認識している。豊洲の契約を審議していなかったことと、元市場長が委員長であることは因果関係はない」などと答えていました。

自分で自分をチェックして公正?

どんな契約案件を審議するかは、委員長に大きな決定権があります。元市場長が委員長では、自ら市場長だった時の案件を公平に審議できるはずがありません。12月8日の都議会本会議では、共産党の尾崎都議が、あらためてこの問題を取り上げ「自分のやったことを自分でチェックするようなもの」という専門家からの指摘を示し「著しく透明性、公平性に欠ける人事ではないか」と質しました。

知事が「公正性が疑われる」と認める

共産党都議団の調査で、政令市を抱える15の道府県の入札監視委員会委員長の経歴を見ても、1県をのぞき、OBを委員に入れていたところはありませぬ。改善を迫った尾崎都議に対し、知事は「都民の目から見ますと、選任自体に公正性が疑われるようなことは避けるべ

き」と答え、「今後は都のOBを委員に選任しないよう指示をしたところでございます。」と説明しました。



日本共産党都議会議員・和泉なおみの 生活・年金・法律相談

1月11日(水)午後2時より
於・和泉なおみ事務所

事前にお電話ください

毎月第二水曜日に、東部法律事務所の方士さんのご協力をお願いいたします。



山本亭にて

和泉なおみ

柴又、帝釈天の近くにある山本亭が再オープンしました。大正末期から昭和にかけて増改築がされた山本栄之助氏の居宅だった建物です。

武家屋敷様式に洋風の意匠を取り入れた長屋門をくぐり、旧玄関を入ると、すぐ右手の洋風の応接室。寄木細工のモザイク床、暖炉のマントルピースや、入り口上部と窓のステンドグラスも素敵です。庭園は純和風で、米国の日本庭園専門誌では、第3位にランクインしています。

今は、庭の松の木に「裾竹吊り」を施し、冬の季節の庭の装いが見られます。縁側の欄間のガラスはにかわを流して模様をつけたもの。細かいところにも様々な工夫やこだわりがあり、往時の栄華がしのべれます。

さらには興味をそそられるのは、当時としては極めて珍しく、建物のほぼ真ん中を通る廊下を境に、二世帯が分かれた造りとなっていることです。

葛飾かたり隊のボランティアの方たちが丁寧に説明してくれます。皆さんもぜひ、お出かけください。

